

広島県空港振興協議会「空港活性化部会（第4回会議）」について

1 概要

広島空港の将来像や今後の運営のあり方等について検討するため、広島県空港振興協議会に県、市町及び経済団体等を構成員とする専門部会として設置した「空港活性化部会」の第4回会議を次のとおり開催した。

2 会議内容

- (1) 日 時 平成28年7月14日（木）9：30～11：30
- (2) 会 場 広島県庁北館4階 第3委員会室
- (3) 出席者 出席者名簿のとおり
- (4) 主な内容
広島空港における空港経営改革について
 - ① 空港経営改革の導入タイミング
 - ② 広島空港の経営改革に係る県への要望事項
 - ③ その他（空港経営改革の導入と同時並行で進めるべき取組）
- (5) 資 料 別添のとおり
- (6) 出席者からの主な意見

① 空港経営改革の導入タイミング

推進体制の強化という観点では、出来るだけ早いタイミングで空港経営改革を導入することが望ましい。空港経営改革の導入に向けた取組と同時並行で、現在の体制において実施すべきことについて着実に取り組んでいくことが重要である。

② 広島空港の経営改革に係る県への要望事項

要望事項として、「需要創出」という項目を追加すべきである。

ア 空港利用は、観光などの需要を喚起することにより生まれるものであるが、空港だけで需要創出は図れない。

イ このため、県等の地域関係者が中心となって地域の魅力づくりに取り組むことが重要であるが、そのうえで、運営権者に対しては、地域の取組と連携して需要創出に貢献する効果的な提案を期待することが出来るのではないか。

ウ 具体的には、瀬戸内のDMOの設立など、官民での観光振興の取組が進みつつあり、これに空港が積極的に連携していくということも考えられる。

③ その他（空港経営改革の導入と同時並行で進めるべき取組）

広島空港の利便性や魅力を目に見える形で高めることが、空港経営改革に向けた地元機運の醸成にも繋がるのではないかと。

ア 広島空港の活性化のためには、運用時間の延長や駐車場料金の見直しをすべきではないか。これらは、行政（とりわけ県）が主導しなければ実現が難しい課題であり、速やかな取組が必要である。

イ 空港アクセスの改善も交通事業者だけで実現できるものではない。渋滞時の迂回路などのインフラ整備を進めるとともに、アクセス路線の拡充に係る行政等の関係者のサポートが重要である。

ウ 魅力のある路線や使いやすいダイヤの便があれば利用者は広島空港を選択する。路線ネットワークを拡充していくことが需要創出の観点から重要である。

エ 今後の成長分野としてインバウンドが強調されているが、路線ネットワークを維持・拡充するためには、基礎需要であるアウトバウンド需要をどうやって確保していくかという視点も重要である。

3 今後の予定

第5回会議（8月頃開催予定）において、広島空港の目指すべき将来像と今後の運営のあり方について取りまとめを行う。